

本学学生の海外旅行に関する考え方

—他大学女子学生に対する18年前の調査と比較して—

高野 成彦*

要 約

本稿では、本学部学生の海外旅行に関する考え方を他大学女子学生に対する18年前の調査と比較することにより明らかにした。

調査対象は、本学部1, 2年生, 196名であり, アンケートの形で調査した。

明らかになった点は, 海外旅行への期待が「緊張解消」以上に「自己拡大」であるという点である。「自己拡大」の行動とは, 自己発見, あるいは, 自尊感情を生み出す行動を指す。

調査分析は, 二つの部から成り立っている。選択肢による回答の部と自由記述の部である。

まず, 選択肢による回答の部では, 先行研究である他大学の女子学生に対して88年に実施された調査と今回の調査データを χ^2 検定により明らかにした。

次に, 海外旅行のビジョンについての自由記述を海外旅行に関する大学生のモチベーションの実証分析研究の視点から分析した。

なお, 残された課題として, 他大学女子学生の最近のデータと比較することで, 本研究の結果をより深める作業があげられる。

1. 本稿の意図

さまざまな機会を活用して, 学生に, 講義への要望を書いてもらっている。その中に, 「海外旅行で役立つ英会話」というリクエストを少なからず見かける。尋ねてみると, 中学校・高等学校では, 十分に採りあげてもらえなかったとのことである。「実践的コミュニケーション能力の育成」が強調されて久しい。最近も, 「『英語が使える日本人』の育成」が掲げられたばかりであり, 2004年9月からは, 初等中等教育における国際教育推

進のための検討¹⁾も始められている。

もちろん, 英語習得のねらいは, 海外旅行で役立たせることがすべてではない。しかし, 海外旅行が英語習得のモチベーションを高める力をもつことは確かであろう。

一方で, 海外旅行に対する, 次のようなまなざしがある。「これからの世代を担う学生達が, 海外にあこがれ, 豊かな国際性を養い, 国際連帯感を強め, 国際協調の必要性を身をもって理解してくれるならば, 来るべき世紀の日本国はバラ色になるであろう」(藤本, 1979: 31)。当時の学生

*大妻女子大学 社会情報学部 (非常勤講師)

は、現在、40代半ばである。

他方で、次のようなまなざしもある。「ロマンチックな旅をあこがれたり、長期滞在型を夢見ている内容も、単なるレジャーだったりする」(寺本, 1988: 115)。

社会は高度情報消費社会へと大きな変貌を遂げたが、現代の学生の海外旅行への考え方に変化は見られるであろうか。

海外旅行者一般については、各種調査が公にされている²⁾。しかし、対象を学生に限った調査は、ほとんど見られない。海外旅行というよりは、むしろ、「海外文化研修」³⁾「海外語学研修」⁴⁾といった海外研修の調査は、比較的多く見られる。

一般に、女性の方が海外への旅行志向が強いと言われる。女子学生を対象とすることにより、学生の海外旅行に関する考え方をより明らかにできるのではないかという問題意識である。

女子学生対象の海外旅行に関する考え方の調査としては、愛知教育大学・三重大学・豊橋短期大学の女子学生281名を対象に、1988年に実施された調査研究(以下、「88年調査」と略記)⁵⁾が公にされている。本稿では、この先行研究との比較をとおして、本学部学生の海外旅行に関する考え方を明らかにするつもりである。(以下、本研究は「05年調査」と略記)

2. 調査の方法

2.1 実施時期：2005年6月

2.2 対象者：本学部1, 2年生196名(有効回答者数)

2.3 回答方法：講義内でアンケート用紙を配布し、回答後、その場で回収した。なお、同用紙の質問項目は、寺本(1988)をもとに一部修正したものを用いた。

2.4 分析方法： χ^2 検定を用いた。

3. 結果

3.1 100万円の使途

問いは、「あなたは、今もし仮に100万円の自由になるお金があったらどう使いますか。次の中から一つだけ選び、数字を○で囲んで下さい。1. 自動車を購入, 2. 国内旅行, 3. 将来の結婚資金にそなえる, 4. 専門図書の購入, 5. 海外旅行, 6. 家電製品などの購入, 7. ギャンブルに没頭する, 8. アクセサリー, 服などの購入, 9. 学資に当てる, 10. わからない」である。

88年調査における「ステレオなどの耐久消費財の購入」「競馬・競輪に没頭する」「装身具, 着物などの購入」は現代的表現に置き換え、それぞれ、「家電製品などの購入」「ギャンブルに没頭する」「アクセサリー, 服などの購入」に変更して調査した。

なお、選択肢としてあげられていた「専門図書の購入」「ギャンブルに没頭する」は「その他」に統合し検定した。表1は、その検定結果である。表1で項目は統合後の順に整序し直し、A.

表1 100万円の使途(人)

	項目	A	B	C	D	E	F	G	H	I
2005年	実測値	9	6	6	53	7	54	8	39	14
	%	(4.6)	(3.1)	(3.1)	(27.0)	(3.6)	(27.6)	(4.1)	(19.9)	(7.1)
	期待値	36.724	8.665	11.141	58.181	14.442	25.995	4.538	24.757	11.553
	残差	-6.621**	-1.208ns	-2.069*	-1.056ns	-2.654**	7.695**	2.144*	3.995**	0.968ns
1988年	実測値	80	15	21	88	28	9	3	21	14
	%	(28.5)	(5.3)	(7.5)	(31.3)	(10.0)	(3.2)	(1.1)	(7.5)	(5.0)
	期待値	52.275	12.334	15.858	82.818	20.557	37.004	6.461	35.242	16.446
	残差	6.621**	1.208ns	2.069*	1.056ns	2.654**	-7.695**	-2.144*	-3.995**	-0.968ns

*p<.05 **p<.01

自動車を購入, B. 国内旅行, C. 将来の結婚資金にそなえる, D. 海外旅行, E. 家電製品などの購入, F. アクセサリー, 服などの購入, G. 学資に当てる, H. その他, I. わからない・無回答, とした。

表1は, 100万円の用途の回答人数の集計に期待値と残差を書き加えたものである。 χ^2 検定の結果, 人数の偏りは有意 ($\chi^2(8) = 119.066, p < .01$) である。そこで, 残差分析をおこなった結果, 「自動車の購入」「将来の結婚資金にそなえる」「家電製品などを購入」は有意に少なく, 「アクセサリー, 服などの購入」「学資に当てる」「その他」は有意に多いことがわかった。

3. 2 海外旅行の評価

問いは, 「最近我国でも海外旅行に出かける人が増えていますが, あなたは海外旅行についてどう思いますか。それぞれの項目について「そう思う」「そう思わない」「わからない」のうちの一つに○をつけて下さい」である。

検定にあたって, 「そう思わない」「わからない」, および, 無記入を統合した。結果は, 表2.1~6のとおりである。

表2. 1は, 「海外旅行は, 世界の人々との友好親善に役立つ」に対する回答人数の集計に期待値を書き加えたものである。 χ^2 検定をおこなった結果, 人数の偏りは有意ではない ($\chi^2(1) =$

表2. 1 「海外旅行は, 世界の人々との友好親善に役立つ」

	項目	そう思う	そう思わない・わからない (人)
2005年	実測値	111	85
	%	(56.6)	(43.4)
	期待値	106.423	89.576
1988年	実測値	148	133
	%	(52.7)	(47.3)
	期待値	152.576	128.423

0.730, ns)。したがって, 「海外旅行は, 世界の人々との友好親善に役立つ」という点では, 05年調査結果と88年調査結果との関連性があるとは言えない。

表2. 2は, 「海外旅行は, 視野を広めたり, 日本を見直すのに役立つ」に対する回答人数の集計に期待値と残差を書き加えたものである。 χ^2 検定の結果, 人数の偏りは有意 ($\chi^2(1) = 68.662, p < .01$) である。そこで, 残差分析をおこなった結果, 「海外旅行は, 視野を広めたり, 日本を見直すのに役立つ」に対して, 05年調査では, 「そう思う」という回答が有意に少ないことがわかった。

表2. 3は, 「外国の都市や自然を見たり, 外国の生活を体験することは, よいレクリエーションになる」に対する回答人数の集計に期待値と残差を書き加えたものである。 χ^2 検定の結果, 人数の偏りは有意 ($\chi^2(1) = 49.989, p < .01$) である。そこで, 残差分析をおこなった結果, 「外国の都市や自然を見たり, 外国の生活を体験することは, よいレクリエーションになる」に対して, 05年調査では, 「そう思う」という回答が有意に少ないことがわかった。

表2. 4は, 「国内の見るべきところを見てから, 海外旅行をすればよい」に対する回答人数の集計に期待値を書き加えたものである。 χ^2 検定をおこなった結果, 人数の偏りは有意ではない

表2. 2 「海外旅行は, 視野を広めたり, 日本を見直すのに役立つ」

	項目	そう思う	そう思わない・わからない (人)
2005年	実測値	127	69
	%	(64.8)	(35.2)
	期待値	161.073	34.926
	残差	-8.286**	8.286**
1988年	実測値	265	16
	%	(94.3)	(5.7)
	期待値	230.926	50.073
	残差	8.286**	-8.286**

** $p < .01$

表2. 3 「外国の都市や自然を見たり、外国の生活を体験することは、よいレクリエーションになる」

	項目	そう思う	そう思わない・わからない (人)
2005年	実測値	132	64
	%	(67.3)	(32.7)
	期待値	161.073	34.926
	残差	-7.070**	7.070**
1988年	実測値	260	21
	%	(92.5)	(7.5)
	期待値	230.926	50.073
	残差	7.070**	-7.070**

**p<.01

表2. 5 「日常の生活が苦しいので、海外旅行はぜいたくだ」

	項目	そう思う	そう思わない・わからない (人)
2005年	実測値	35	161
	%	(17.9)	(82.1)
	期待値	33.693	162.306
1988年	実測値	47	234
	%	(16.7)	(83.3)
	期待値	48.306	232.693

($\chi^2(1) = 0.130, ns$)。したがって、「国内の見べきところを見てから、海外旅行をすればよい」という点では、05年調査結果と88年調査結果との関連性があるとは言えない。

表2. 5は、「日常の生活が苦しいので、海外旅行はぜいたくだ」に対しての回答人数の集計に期待値を書き加えたものである。 χ^2 検定をおこなった結果、人数の偏りは有意ではない($\chi^2(1) = 0.103, ns$)。したがって、「日常の生活が苦しいので、海外旅行はぜいたくだ」という点では、05年調査結果と88年調査結果との関連性があるとは言えない。

表2. 6は、「最近海外での日本旅行者の評判がよくないときくので、だれもかれも外国に行く風潮は感心できない」に対しての回答人数の集計に期待値を書き加えたものである。 χ^2 検定をおこ

表2. 4 「国内の見べきところを見てから、海外旅行をすればよい」

	項目	そう思う	そう思わない・わからない (人)
2005年	実測値	41	155
	%	(20.9)	(79.1)
	期待値	39.446	156.553
1988年	実測値	55	226
	%	(19.6)	(80.4)
	期待値	56.553	224.446

表2. 6 「最近海外での日本旅行者の評判がよくないときくので、だれもかれも外国に行く風潮は心できない」

	項目	そう思う	そう思わない・わからない (人)
2005年	実測値	28	168
	%	(14.3)	(85.7)
	期待値	33.283	162.716
1988年	実測値	53	228
	%	(18.9)	(81.1)
	期待値	47.716	233.283

なった結果、人数の偏りは有意ではない($\chi^2(1) = 1.714, ns$)。したがって、「最近海外での日本旅行者の評判がよくないときくので、だれもかれも外国に行く風潮は感心できない」という点では、05年調査結果と88年調査結果との関連性があるとは言えない。

3. 3 海外旅行関心度

問いは、「あなたは、外国に行ってみたいと思いますか。そうは思いませんか。次の中から一つだけ選び、○で囲んで下さい。1. ぜひ行きたい, 2. チャンスがあれば行きたい, 3. それほど行きたいとは思わない, 4. まったく行きたいとは思わない, 5. わからない」である。

なお、選択肢としてあげられていた「それほど行きたいとは思わない」「まったく行きたいとは

表3 海外旅行関心度 (人)

項目	ぜひ行きたい	チャンスがあれば行きたい	行きたいとは思わない	わからない
2005年 実測値	125	57	13	1
%	(63.8)	(29.1)	(6.6)	(0.5)
期待値	99.138	85.619	10.241	
残差	4.821**	-5.374**	1.152ns	
1988年 実測値	117	152	12	0
%	(41.6)	(54.1)	(4.3)	(0)
期待値	142.861	123.380	14.758	
残差	-4.821**	5.374**	-1.152ns	

**p<.01

表4 希望する旅行先 (人)

項目	米諸国	ヨーロッパ諸国	アフリカ・中近東・アジア諸国	太平洋諸国	オセアニア諸国	その他	無回答
2005年 実測値	26	93	13	24	21	0	5
%	(14.3)	(51.1)	(7.1)	(13.2)	(11.5)	(0)	(2.8)
期待値	27.772	82.489	14.093	14.508	38.135		
残差	-0.478ns	2.069*	-0.396ns	3.399**	-4.094**		
1988年 実測値	41	106	21	11	71	15	4
%	(15.2)	(39.4)	(7.8)	(4.1)	(26.4)	(5.6)	(1.5)
期待値	39.227	116.510	19.906	20.491	53.864		
残差	0.478ns	-2.069*	0.396ns	-3.399**	4.094**		

*p<.05 **p<.01

「行きたいとは思わない」は「行きたいとは思わない」に統合して検定した。また、「わからない」の項目は、頻度が低いのでこれを除いて検定した。

表3は、海外旅行関心度についての回答人数の集計に期待値と残差を書き加えたものである。 χ^2 検定の結果、人数の偏りは有意 ($\chi^2(2) = 28.891, p < .01$) である。そこで、残差分析をおこなった結果、05年調査では、「チャンスがあれば行きたい」は有意に少なく、「ぜひ行きたい」は有意に多いことがわかった。

3.4 希望する旅行先

問いは、「行きたい」と答えた人は、行くとしたら、どこの国へ行ってみたいと思いますか。次の中から一つを選んで下さい。1. 北米諸国 (ア

メリカ本土, カナダ, アラスカ), 2. 中南米諸国 (メキシコ, カリブ海諸国, ブラジル, アルゼンチン), 3. 北ヨーロッパ諸国 (ノルウェー, スウェーデン, デンマーク), 4. 西ヨーロッパ諸国 (イギリス, フランス, ドイツ, スイス), 5. 南ヨーロッパ諸国 (スペイン, ポルトガル, イタリア, ギリシア), 6. 東ヨーロッパ諸国 (ロシア, チェコ, ポーランド, ハンガリー), 7. アフリカ諸国 (自由に一カ国挙げて下さい), 8. 中近東諸国 (トルコ, イラン, イラク, イスラエル, エジプト), 9. 東南アジア諸国 (フィリピン, インドネシア, タイ, シンガポール, インド, パキスタン), 10. 東アジア諸国 (韓国, 香港, 台湾, 中国), 11. 太平洋諸国 (ハワイ, グアム, タヒチ), 12. オセアニア諸

国（オーストラリア、ニュージーランド）」である。

検定にあたっては、選択肢として掲げていた「北米諸国」「中南米諸国」は「米諸国」に、「北ヨーロッパ諸国」「西ヨーロッパ諸国」「南ヨーロッパ諸国」「東ヨーロッパ諸国」は「ヨーロッパ諸国」に、「アフリカ諸国」「中近東諸国」「東南アジア諸国」「東アジア諸国」は、「アフリカ・中近東・アジア諸国」に統合し、以下、「太平洋諸国」「オセアニア諸国」「その他」「無回答」と表記した。なお、「その他」「無回答」を除いて検定した。

表4は、希望する旅行先の回答人数の集計に期待値と残差を書き加えたものである。 χ^2 検定の結果、人数の偏りは有意 ($\chi^2(4) = 26.383, p < .01$)

である。そこで、残差分析をおこなった結果、05年調査では、希望する旅行先として、「オセアニア諸国」は有意に少なく、「ヨーロッパ諸国」「太平洋諸国」は有意に多いということがわかった。

3.5 海外旅行経験回数

問いは、「あなたは、海外旅行をしたことがありますか。○をつけて下さい。ある、ない。「ある」と答えた方は、最近5ヶ年間に何回出かけたか。1回、2回、3回、4回、5回以上」である。

検定では、海外旅行経験回数を「ない」と比べた。その際、「3回」「4回」「5回以上」は「3回以上」に統合し検定した。なお、「無回答」は検定から除外した。

表5 海外旅行経験回数（人）

項目	ない	1回	2回	3回以上	無回答
2005年 実測値	96	51	21	18	10
%	(49.0)	(26.0)	(10.7)	(9.2)	(5.1)
期待値	142.094	26.742	9.579	7.583	
残差	-10.267**	6.539**	4.887**	4.982**	
1988年 実測値	260	16	3	1	1
%	(92.5)	(5.7)	(1.0)	(0.4)	(0.4)
期待値	213.905	40.257	14.420	11.416	
残差	10.267**	-6.539**	-4.887**	-4.982**	

**p<.01

表6 経験した海外旅行スタイル（人）

項目	パッケージツアー (団体旅行)	家族と (パッケージではない)	同級生と (パッケージではない)	その他	無回答
2005年 実測値	22	32	15	19	2
%	(24.4)	(35.6)	(16.7)	(21.1)	(2.2)
期待値	27.443	27.443	14.113		
残差	-2.881**	2.412*	0.569ns		
1988年 実測値	13	3	3	2	0
%	(61.9)	(14.3)	(14.3)	(9.5)	(0)
期待値	7.556	7.556	3.886		
残差	2.881**	-2.412*	-0.569ns		

*p<.05 **p<.01

表7 経験時の海外旅行費用（人）

項目	30万円未満	30万円以上 70万円未満	70万円以上	わからない	無回答
2005年 実測値	35	12	6	31	6
%	(38.9)	(13.3)	(6.7)	(34.4)	(6.7)
期待値	29.528	18.171	5.300		
残差	3.070**	-3.623**	0.650ns		
1988年 実測値	4	12	1	4	0
%	(19.0)	(57.1)	(4.8)	(19.0)	(0)
期待値	9.471	5.828	1.700		
残差	-3.070**	3.623**	-0.650ns		

**p<.01

表8 希望する海外旅行日数（人）

項目	10日間以内	10日以上 20日未満	20日以上 20日未満	50日以上	1年以上 半年未満	無回答
2005年 実測値	95	46	14	1	8	18
%	(52.2)	(25.3)	(7.7)	(0.5)	(4.4)	(9.9)
期待値	55.431	67.664	26.759	4.969	9.174	
残差	8.310**	-4.372**	-3.430**	-2.300*	-0.507ns	
1988年 実測値	50	131	56	12	16	4
%	(18.5)	(48.7)	(20.8)	(4.5)	(6.0)	(1.5)
期待値	89.568	109.335	43.240	8.030	14.825	
残差	-8.310**	4.372**	3.430**	2.300*	0.507ns	

*p<.05 **p<.01

表5は、海外旅行経験回数の回答人数の集計に期待値と残差を書き加えたものである。 χ^2 検定の結果、人数の偏りは有意 ($\chi^2(3)=107.976, p<.01$) である。そこで、残差分析をおこなった結果、05年調査では、海外旅行の経験が「ない」は有意に少なく、「最近5ヶ年間に1回」「最近5ヶ年間に2回」「最近5ヶ年間に3回以上」はそれぞれ有意に多いということがわかった。

3.6 経験した海外旅行スタイル

問いは、「海外旅行をしたことがある人は、だれと行きましたか。次の中から一つを選んで○をつけて下さい。1. 同級生（パッケージではない）、2. 地域の人（パッケージではない）、3. パッケージツアー（団体旅行）、4. 家族と

（パッケージではない）、5. 友人、知人と（パッケージではない）、6. 1人で、7. その他」である。

検定にあたっては、「同級生（パッケージではない）」と「友人、知人と（パッケージではない）」とを統合した。表6では「無回答」を記載してあるが、これを除いて検定した。また、「地域の人（パッケージではない）」「1人で」は05年、および、88年ともに頻度が0であったので、表からも削除した。

表6は、経験した海外旅行スタイルの回答人数の集計に期待値と残差を書き加えたものである。

χ^2 検定の結果、人数の偏りは有意 ($\chi^2(2)=8.762, p<.05$) である。そこで、残差分析をおこなった結果、05年調査では、「パッケージツ

アー(団体旅行)」は有意に少なく、「家族と(パッケージではない)」は有意に多いことがわかった。

3.7 経験時の海外旅行費用

問いは、「費用はいくらぐらいですか、次の中から一つ○で囲んで下さい。1.10万円未満, 2.10万円以上30万円未満, 3.30万円以上50万円未満, 4.50万円以上70万円未満, 5.70万円以上100万円未満, 6.100万円以上, 7.わからない」である。

検定にあたっては、「10万円未満」と「10万円以上30万円未満」を「30万円未満」に、「30万円以上50万円未満」と「50万円以上70万円未満」を「30万円以上70万円未満」に、「70万円以上100万円未満」と「100万円以上」を「70万円以上」に統合した。なお、「わからない」「無回答」は検定から除外した。

表7は、経験時の海外旅行費用の回答人数の集計に期待値と残差を書き加えたものである。 χ^2 検定の結果、人数の偏りは有意($\chi^2(2)=13.185, p<.01$)である。そこで、残差分析をおこなった結果、05年調査では、海外旅行時の費用として、「30万円以上70万円未満」は有意に少なく、「30万円未満」は有意に多いということがわかった。

3.8 希望する海外旅行日数

問いは、「『行きたい』と答えた人は、何日間ぐらいが適当と思いますか、一つだけ○で囲んで下さい。1.10日間以内, 2.10日以上20日未満, 3.20日以上50日未満, 4.50日以上60日未満, 5.60日以

上90日未満, 6.90日以上半年未満, 7.1年, 8.1年以上」である。

検定にあたっては、「50日以上60日未満」「60日以上90日未満」「90日以上半年未満」を「50日以上半年未満」に、「1年」「1年以上」を「1年以上」に統合した。なお、「無回答」は検定から除外した。

表8は、希望する海外旅行日数の回答人数の集計に期待値と残差を書き加えたものである。 χ^2 検定の結果、人数の偏りは有意($\chi^2(4)=72.181, p<.01$)である。そこで、残差分析をおこなった結果、05年調査では、海外旅行希望日数として、「10日以上20日未満」「20日以上50日未満」「50日以上半年未満」は有意に少なく、「10日間以内」は有意に多いということがわかった。

3.9 希望する海外旅行の目的

問いは、「『行きたい』と答えた人は、その目的は何ですか。次の中から一つだけ○で囲んで下さい。1.観光や遊び, 2.留学, 勉強, 3.友人, 知人の訪問, 4.親善(スポーツ, 文化), 5.宗教的な目的(聖地巡礼など), 6.その他」である。

検定にあたっては、「友人, 知人の訪問」「親善(スポーツ, 文化)」「宗教的な目的(聖地巡礼など)」を「その他」に統合した。なお、「無回答」は検定から除外した。

表9は、希望する海外旅行の目的の回答人数の集計に期待値を書き加えたものである。 χ^2 検定をおこなった結果、人数の偏りは有意ではない($\chi^2(2)=3.408, ns$)。したがって、海外旅行希望者

表9 希望する海外旅行の目的(人)

	項目	観光や遊び	留学・勉強	その他	無回答
2005年	実測値	134	22	9	17
	%	(73.6)	(12.1)	(5.0)	(9.3)
	期待値	139.027	16.423	9.548	
1988年	実測値	230	21	16	2
	%	(85.5)	(7.8)	(6.0)	(0.7)
	期待値	224.972	26.576	15.451	

表10 希望する海外旅行スタイル (人)

項目	パッケージツアー (団体旅行)	パーソナル (個人で滞在型)	その他	無回答
2005年 実測値	42	115	8	17
%	(23.1)	(63.2)	(4.4)	(9.3)
期待値	58.684	98.315		
残差	-3.498**	3.498**		
1988年 実測値	112	143	11	3
%	(41.6)	(53.2)	(4.1)	(1.1)
期待値	95.315	159.684		
残差	3.498**	-3.498**		

**p<.01

にみる海外旅行の目的の点では、05年調査結果と88年調査結果との関連性があるとは言えない。

3.10 希望する海外旅行スタイル

問いは、「『行きたい』と答えた人は、次のどれを希望しますか。○で囲んで下さい。1. パッケージツアー (団体旅行), 2. パーソナル (個人で滞在型), 3. その他」である。表10における表示は、これに、「無回答」を加えた。なお、検定では、「その他」「無回答」を除外した。

表10は、希望する海外旅行スタイルの回答人数の集計に期待値と残差を書き加えたものである。 χ^2 検定の結果、人数の偏りは有意 ($\chi^2(1) = 12.238, p < .01$) である。そこで、残差分析をおこなった結果、05年調査では、海外旅行希望者にみる海外旅行のパターンとして、「パッケージツアー (団体旅行)」は有意に少なく、「パーソナル (個人で滞在型)」は有意に多いということがわかった。

3.11 海外旅行のビジョンについての記述

佐々木 (2002) は、海外旅行に関する大学生のモチベーションを「緊張解消」(のんびりとした観光, 休養・保養・健康回復), 「娯楽追求」(「地域を楽しむ」「文化を楽しむ」「消費を楽しむ」), 「関係強化」(友人・知人の訪問, 新しい人々と知己になるなどの社会的な人間関係の拡大・強化), 「知識増進」(社会やそこに住む人々の生活

について、理解を深めたり新しい知識の獲得), 「自己拡大」(自己発見や自己評価につながる行動, 自信や自尊の感情を生み出す行動, 高い地位・威光・特権などを味わうための行動など。旅行後にその行動経験を誇張したり吹聴することも含む) の5次元体系で理解することを検討している。

本稿では、その5次元を援用し、「これから海外旅行に行けるラッキーに恵まれたら、あなたはどんな旅を経験したいですか? 自分のビジョンでけっこうですから、自由に以下に記述して下さい (旅行先, 旅行期間, 旅の仕方, 現地で何をみたいか, 経験したいか, 帰国して何かに役立てようと思うか? 等をできるだけ具体的に書いて下さい)」という問いに対する自由記述を分類・整理した。次のとおりである。なお、【 】内に、旅行先, 旅行期間をまとめたほかは、ほぼ学生の原文のまま掲載した。なお、特徴が表れているものを中心に掲載した。

3.11.1 緊張解消

- ・ひたすら泳ぐか寝るか食べるかの生活をして、ぼーっと過ごしたい。何かに役立てようとは思わない。【モルジブ, 2週間くらい】
- ・日本を忘れて息抜きしたい。現地できれいな海を見てみたい。【ハワイ】
- ・きれいな海を見ていやされたい。【ハワイ, 2週間くらい】

- ・日本にはない自然の山や海の風景を見ていやされたい。
- ・広大な自然を体感したい。【ニュージーランド】
- ・自然が多くてのんびりとできるところへ行きたい。現地のゆったりとした生活や空間を味わいたい。【北欧】
- ・今までした海外旅行は好きな所に行けなかったから、フラフラ好きなどころに行きたい。田舎のほうに行つてのんびりくらしたい。
- ・母と姉の3人で、のんびりとあそぶ。通やくをつれて行く。キレイな庭園や城などを見たい。あと、親せきに会いたい。【ドイツ, 1週間以上】
- ・使用人つきの一戸建てを1ヶ月借りて、アフタヌーンティーや自然の多い公園でゆったりと休養するのが基本。たまに有名な宮殿や墓、塔を見に行く旅。帰国したら元の生活に、前よりちょっと元気な状態で戻っていく。【イギリス, 1ヶ月】

3. 11. 2 娯楽追求

3. 11. 2. 1 地域を楽しむ

- ・高校の時、世界史を勉強したので世界史で習った地名に行きたいです。私の世界史の先生は、学生の時1人で世界のいろんなところへ行つて世界からみた日本の小ささ（良くも悪くも）を感じたと言っていました。
- ・“最後のばんさん”を見に行きたい。（確か、教会のカベにかかれていますとか…）高校の時そういうビデオを見て、その時からすごい行きたいと思っています!!
- ・まずは世界的に有名な所に行つてみたい。（エッフェル塔、ピサの斜塔、遺跡…etc）紙や液晶で見ると、本物を見るのはちがうと思うから。
- ・ルーヴル美術館内の見ることが可能な作品全て見たい。「ダヴィンチ・コード」を読んでから行きたくなったので、作品内に出て来た場所をめぐりたい。【パリ, 約5週間～6週間】
- ・ヨーロッパの建築物や風景・街並みを見たい。

あと、ホームステイもしたい（どこかの民族の!! 首長族とか）【ヨーロッパ】

- ・コアラに会いたい。食事が合わなそうなので10日以内の旅行をまずしてみたい。【オーストラリア】
- ・とりあえず、観光! 後で留学

3. 11. 2. 2 文化を楽しむ

- ・ケルト文化の真ずいに触れたい。でもテロとかこわいからツアーで行きたい。【アイルランド, 10日前後】
- ・舞踊が好きなので、各国の民族舞踊が見てみたいですが、特にスペインに行つてスペイン舞踊が見てみたいです。パッケージツアーは時間的な自由はややなくなりますが、思わぬ楽しいもの、興味がひかれるものに出会えることが多いので、利用していきたいと思います。
- ・おととし、フランスとドイツに行つて日本との文化のちがいに見物するよりもおどろきの方が多かったので、今度はもっとゆっくり色々な所を見たい。
- ・N.Yに行つてホットドックを食べたい。1ヶ月ぐらい一人暮らしをしてニューヨーカーになってみたい。映画のシーンで出た場所を見たい。
- ・海外の歴史を見たい。日本とは違う価値観の中で生活してみたい。
- ・旅行というよりも、1ヶ月ぐらいの短期で構わないからホームステイ等して現地の普通の生活を体験してみたい。
- ・宿もホテルではなくホームステイのような形ですごしたい。むこうの大学にも行つてみたい。観光地を巡るのではなく、住人のようにフツの生活をしたい。【USA, 1ヶ月】
- ・風けい、たてものがきれいらしいので、行きたい。仕事で行きたい。【スペイン, 1週間ぐらい】

3. 11. 2. 3 消費を楽しむ

- ・旅行中は、とにかく楽しむ。お金とかは気にしないでほしいモノ買つたり、海外でしか食べら

れないモノをたくさん食べたい。

- ・今1番行きたい所はロサンゼルス。地元の人しか分からないような USED のお店に行って服を安く買いまくりたい。フリーマーケットとか。【ロサンゼルス】
- ・街を散策。ブロードウェイに行って、事前に日本語の台本をしっかりと読んで頭にたたきこみそのミュージカルを見る。大きなハンバーガーを食べる。世界貿易センタービルの跡地も見る。本屋さんも行く。かわいい雑貨や服やコスメを買う。【ニューヨーク, 1週間の予定】
- ・北と南の間を通っている列車に乗って、地域の変化を見てベトナム料理をたくさん食べたい。
【ベトナム, 15日間】
- ・今は韓流の時代なので、ぜひ韓国に行ってビビンバ、チゲを食べたい。見たいものはイ・ドンゴンとかクォン・サンウとか俳優さんめぐりがしたいです。【韓国, 2泊か3泊】

3. 11. 3 関係強化

- ・友達に会ってくる。お世話になった先生に会いに行く。【NY】
- ・まず、高校時代に行ったイギリスのホームステイ先に行って、ホストファミリーに会う。そして、私が大好きな BLUE や D-SIDE のコンサートに行く。
- ・スペインのマドリードに行ってレアルのサポーターと友達になりスポーツバーで騒ぐ。【スペイン】
- ・どっか地方の家族のオウチにホームステイしたい。
- ・馬超孟起のいた西涼の辺りに行って、遊牧民族にまざりたい。
- ・有名な観光名所を見て回るだけではなくて、現地の人と話をしたり、ふれあいたい。そして友達を作る！
- ・ホームステイではなく寮滞在で世界中に友達をつかって、授業がない週末はイギリスのいろんなところ（ロンドンのピクベンやハリーポッターの舞台だったところ）をまわりたい。【イギリスに語学留学がしたい。1ヶ月間くらい】

- ・安全な留学できる所へ行って英語を学び、できれば友だちも作りたい。短期間しか行ったことがないので長期間行ってみたい。
- ・たくさんの人々と触れあって、友だちをたくさんつくりたい。帰国してからも、その人たちとメールをしたりしたい。

3. 11. 4 知識増進

- ・文化のちがいを、外人の友人をとおして知ってみたい。
- ・主な目的は観光です。ハワイの文化にも興味があります。あと、海が好きなのでたくさん泳ぎたいです。英語も少し学べたら良いなあと思います。ハワイにはどのような人種の人がいるのかも知りたいです。【ハワイ, 1週間位】
- ・アンコールワットとか、世界の遺跡を見てみたい。ただ、観光するだけじゃなくて、その国の社会情勢や、文化も知りたい!!日本との違いを知りたい。
- ・個人で自由に好きなところに行きたい。現地では、建物や自然を見たい。田舎地方に行って料理や文化を学んだりしたい。【イギリスかフランス, 7日~10日】
- ・ホームステイしたい。その国の生活習慣を見るのが楽しい。普通のスーパーに行くとその国と日本との違いがわかって楽しい。【南の国や治安のよい国, 1ヶ月ぐらい】
- ・イタリアに行って車やバイクに対するセンスを学びたい
- ・私は今 HIPHOP のダンスをやっているから、3年 L.A にいっている地元の先パイの家にとめてもらって L.A の地元の生活や、クラブとかにあって Dance のべんきょうしたい。
- ・カリフォルニア州立ロングビーチ校に4年間行きたい!その前に ESLなどで学んで編入したい。語学を学び、自分の夢である歌 and ダンスそしてネイルやメイクの勉強をしたい。
- ・大学を見学して自分と同世代の子達の生活を知りたい。【イギリス, 1ヶ月位】
- ・ホームステイという形で留学したい。日本とは違った文化、考え方に触れて、視野を広げた

- い。私にとって、同世代の人でも外国の人は大人に感じるから。【アメリカ, 1年間】
- ・今中国語を学んでいて、父も中国語をしゃべれるので中国に行って歴史的建造物を沢山みたい!! 【中国】
 - ・親せきが住んでいるのでショートホームステイがしたい。第二外国語がドイツ語なので少しでも学習したのを使ってみたい。【ドイツ, 1週間ほど】
 - ・W杯観戦, ゴミ1つない街, 語学でドイツ語を学んでいるので, ドイツ語を話してみたい。【ドイツ, W杯期間】
 - ・高校の時に行ったニュージーランドのホストファミリーの所へ1年間行って語学をきちんと学びたい。【ニュージーランド, 1年間】
 - ・その国の言語を話せるようになりたいので長く滞在したい。英語を話せるようになりたいからアメリカかイギリスあたりがいい。
 - ・ホームステイがしてみたい。勉強する。ではなくもっと堅苦しくなく遊ぶかんじでいきたい!! 少し日常会話が上手くなったらいいな。聞き取れたい。【カナダ, 30日位】
 - ・以前, オーストラリアにホームステイをした時, 言っていることはわかっているけど, それに答えることができなくてかなしかった。だから, もう少し話す努力をしたい。
 - ・とても住みやすい所で, 美しい所だったから。英語の能力をあげたい。ニュージーランドのことをもっと知りたい。【ニュージーランド, 1年間ぐらい】
 - ・ホームステイがしたい。語学学んで就職に役立たせたい。【アメリカ】

3. 11. 5 自己拡大

- ・パッケージツアーではなく, 自分たちですべて計画をたててうごきたい。ユースホステルなどにとまって, 長い旅をしたい。
- ・あらゆる所を点々とめぐりながら, たくさんの人と出会い言葉の壁を越えて, 交流したい。観光名所にかぎらず下町のような所も訪ねたい。その地に住む人々のカラーを感じ, 自分の世界

- 観を広げたい! 【南米, 5ヶ月くらい】
- ・美術館を見に行ったり, オーケストラをききにいきたい。言葉もおぼえて, グローバルな人間になりたい。【フランス】
- ・自分の好きな音楽にたくさん触れられるような旅がしたい。帰国したら, 自分の今後の音楽についていかしていききたい。【10日間ぐらい】
- ・ホームステイしたりしてアメリカ人により近い日本人になって, 将来はアメリカに住みたい。ラスベガスにカジノに行きたい。【アメリカ, 1年以上】
- ・コアラとカンガルーがいる公園に行ってみたい。あと英語の勉強にも行ってみたい。この場合だと1年ぐらいいて本場の英語にふれたい。その英語をいかして, 日本で働く。【オーストラリア, 1年ぐらい】
- ・観光地よりも, 会社とか大学とか見てみたい。自分と同じ歳の子がどんな生活をしているのか見てみたい。しげきを受けて, 自分にも新しい目標を作ってみる。【東アジア諸国, 2週間ぐらい】
- ・フィレンツェに行きたいです。観光で。ヨーロッパ古城を巡る旅とかもなかなかいいです。今, ボランティアで古城修復にたずさわるものもありますよね, それに参加してみたいです。
- ・ガウディの建築物を見て回る(スペインの建築物 etc...) サグラダファミリア完成のため, 手伝いたい【スペイン, 約2週間】
- ・東南アジアの孤児院にボランティアとして行く。「観光地」として整備されていない所をみたい。【東南アジア, 1ヶ月位】
- ・貧しい子どもたちのいる国に長くいたい。いろいろと手助けしたい。

4. 考察

4. 1 100万円の使途

88年調査における「ステレオなどの耐久消費財」という表記を「家電製品など」に, 「装身具, 着物など」を「アクセサリ, 服など」に変更せざるを得ないほどに, 88年調査と05調査の間で時

代は大きく変わった。

05年調査では「自動車の購入」「家電製品などを購入」が有意に少ないということがわかったが、各家庭の自動車保有率、家電製品の所持率と少なからず関係があると考えられる。ある意味、「豊か」になっただけ、「アクセサリ、服などの購入」が有意に多いということになったのではないか。

また、「『専門図書の購入』や『学資に当てる』という項目を選んだ学生が極端に少ないのは気になる」とされていた88年調査と比べ、「学資に当てる」が有意に多かったのは05年調査の特徴である。

さらに特徴的なのは、約20%もの学生が「その他」を選択したという点である。生徒の意識が、88年に設定されたカテゴリーに収まらなくなっているのではないか。「服と結婚資金」と、二つの項目の選択を示す内容のメモがいくつか見られた。「将来の結婚資金にそなえる」が有意に少ない理由と考えられる。

4. 2 海外旅行の評価および海外旅行関心度

海外旅行の評価について、05年調査の結果によれば、「海外旅行は、視野を広めたり、日本を見直すのに役立つ」という項目に対して「そう思う」という回答が有意に少ないことがわかった。検定にあたっては、「そう思わない」「わからない」、および、無記入を統合した。カテゴリーが、「視野を広め」という内容と「日本を見直す」という内容の二つを含んでいるという理由が考えられる。自由記述の内容から判断すると、「視野を広める」という内容については肯定的な評価になるものと考えられるが、「日本を見直すのに役立つ」という内容が否定的な評価になり、積極的な評価をくだすことができなかつたものと考えられる。

「外国の都市や自然を見たり、外国の生活を体験することは、よいレクリエーションになる」という項目に対しても、05年調査では、「そう思う」という回答が有意に少ないことがわかった。自由記述の内容を分析する際に援用した、佐々木

(2002)によれば、「『旅行キャリア』の観点からみたとき、『緊張解消→自己拡大』の方向で『低次→高次』の階層的構造になっている」

(p. 221)とされる。ここでいう「自己拡大」の行動とは、「自己発見や自己評価につながる行動、自信や自尊の感情を生み出す行動」(佐々木, 2000: 187f)をいう。05年調査では、海外旅行の経験者が飛躍的に増加していた点を考慮すると、「外国の都市や自然を見たり、外国の生活を体験すること」は、「よいレクリエーションになる」という以上の評価がくだってしかるべきと考えられる。

4. 3 海外旅行関心度

海外旅行への関心度の点でも、「チャンスがあれば行きたい」は有意に少なく、「ぜひ行きたい」は有意に多いことがわかった。「視野を広め」、よって「自己拡大」への期待があるからこそ、「チャンスがあれば」という程度ではなく、「ぜひ」行きたいという結果になったものと考えられる。

4. 4 希望する旅行先

05年調査では、希望行先として、「オセアニア諸国」は有意に少なく、「ヨーロッパ諸国」「太平洋諸国」は有意に多いということがわかった。

中学校の「社会」では、近隣の国を含めて、二つ又は三つの国を具体的に扱うようになってきており、以前ほど世界各国をくまなく学習することがなくなってきた。学びの対象となった国々についてはそれなりに興味関心の対象となることは、自由記述の中にも見てとることができる。

検定の際には統合した、もとのカテゴリーでの順位を参考までにみてみよう。05年調査では、①西ヨーロッパ諸国 (32.4%)、②南ヨーロッパ諸国 (14.8%)、③太平洋諸国 (13.2%) であり、以下、北米諸国 (12.1%)、オセアニア諸国 (11.5%) と続いている。88調査では、①西ヨーロッパ諸国 (30.9%)、②オセアニア諸国 (26.4%)、③北米諸国 (14.1%)、これに、南

ヨーロッパ諸国(6.3%)が続いている。ここでもオセアニア諸国の数字が特徴的である。この特徴をどう解釈するかについては、社会情勢との関連はもちろんのこと、たんに、一時の「オーストラリアブーム」との関連だけで考えることはできるのであろうか。先にみてきたように、海外旅行への期待が「自己拡大」に向かっているとき、どのような海外旅行を学生がイメージしているかを正確に描き出さなければ、「マスメディアの影響をかなり受けていることが推察される」(寺本, 1988:103)とする従前の解釈の域を脱することができない。検討を続けよう。

4. 5 海外旅行経験回数

まず初めに、88年調査での海外旅行経験者は21名であった。したがって、以下、4.5~4.7までの考察には、その点の考慮が必要である。

さて、05年調査では、海外旅行の経験が「ない」は有意に少なく、「最近5ヶ年間に1回」「最近5ヶ年間に2回」「最近5ヶ年間に3回以上」はそれぞれ有意に多いということがわかった。88年調査では、「大学1~2年生が主体の調査であるため、実際の海外旅行経験は、それほど高くないものと思われる」(寺本, 1988:105)とされていたが、05年調査も同様に対象は大学1~2年生である。やはり、解釈の枠組みを変えなければならない。

4. 6 経験した海外旅行スタイル

88年調査では、「パッケージツアー依存の最近の傾向が強くあらわれているものと思われる」(寺本, 1988:106)とされていた。これに対し、05年調査では、「パッケージツアー(団体旅行)」は有意に少なく、「家族と(パッケージではない)」は有意に多いことがわかった。この項目に限ったことではないが、05年調査の対象学生の家庭環境と関連があるかどうか。慎重な検討を要する。

4. 7 経験時の海外旅行費用

05年調査では、海外旅行時の費用として、「30

万円以上70万円未満」は有意に少なく、「30万円未満」は有意に多いということがわかった。88年調査における海外旅行経験者数が21名という数であったため、上記、統計的検定の結果の記述からは削除したが、参考までに、経験者の旅行先を記しておく。()内は人数である。88年調査では、中国(6)、ギリシア(5)、アメリカ・イタリア・フランス(4)である。それに対して、海外旅行経験者数が90名であった05年調査では、アメリカ(23)、ハワイ(22)、オーストラリア(20)である。「最近のツアーの豪華さを感じさせる結果」(寺本, 1988:106)と評されていた88年調査と比べ、05年調査では旅行費用が安価になり、それだからこそ、先述のように、旅行回数も多くなったものと考えられる。

4. 8 希望する海外旅行日数

05年調査では、海外旅行希望日数として、「10日以上20日未満」「20日以上50日未満」「50日以上半年未満」は有意に少なく、「10日間以内」は有意に多いということがわかった。これまでの結果を総合すると、安価な旅行費用で、しかも、短期滞在型をとることで、経験回数を多くすることを希望していると考えられる。

4. 9 希望者する海外旅行スタイル

先に検討したように、05年調査では、海外旅行経験時の旅行パターンとして、「家族と(パッケージではない)」が有意に多いことがわかった。今度は、海外旅行希望者でデータをとってみると、「パッケージツアー(団体旅行)」は有意に少なく、「パーソナル(個人で滞在型)」は有意に多いということがわかった。ここでも、海外旅行に対する学生の認識が、たんなる緊張解消から自己拡大の方向に向かっていると考えられる。以下の自由記述により明らかに見てとれる。

4. 10 海外旅行のビジョンについての自由記述

05年調査の自由記述においては、88年調査と比べて、「自己拡大」との関連をもつ記述に特徴が見られる。

たとえば、「関係強化」と「自己拡大」とを関連させた記述として、「あらゆる所を点々とめぐりながら、たくさんの人と出会い言葉の壁を越えて、交流したい。観光名所にかぎらず下町のような所も訪ねたい。その地に住む人々のカラーを感じ、自分の世界観を広げたい」という記述をあげることができる。

また、「知識増進」と「自己拡大」とを関連させた記述として、「観光地よりも、会社とか大学とか見てみたい。自分と同じ歳の子がどんな生活をしているのか見てみたい。しげきを受けて、自分にも新しい目標を作ってみる」という記述をあげることができる。

その他、古城修復への参加希望、ボランティア活動への参加希望等、「自己拡大」の契機を海外旅行に求めていることも自由記述から見てとれた。

かつて、恩田(1989)では、『とにかく海外旅行に行きたい』『若いうちに海外旅行をしたい』『就職の前に行きたい』という意欲先行型から、『異文化にふれたい』『語学力の向上』『現地の若い人とのコミュニケーション』など目的志向型の学生まで様々であったが、最近では、より積極的に『自分の英語力を試したい』あるいは『日本を外から客観的にみたい』という国際派志向の意欲と目的が、明確になってきた」と指摘されていた。88年調査当時の指摘である。当時はまだ、本研究で明らかになった「自己拡大」という視点は明確になっていない。

5. まとめ

本学部学生の海外旅行に関する考え方は、他大学女子学生に対する18年前の調査と比較して、「自己拡大」の視点から特徴付けることができた。

選択肢による回答の分析によれば、海外旅行への関心度は高いものの、海外旅行がレクリエーションや日本を見直すという視点での評価は低かった。海外旅行経験については、家族とともに、安価な旅行を複数回数経験している学生が比

較的多いことが明らかになった。また、今後の海外旅行に対する希望としては、短期の個人滞在型を希望していることも明らかになった。

自由記述の分析からは、「緊張解消」「娯楽追求」の記述以上に、「関係強化」と「自己拡大」、「知識増進」と「自己拡大」の視点を含んだ記述が特徴的であり、海外旅行に「自己拡大」の契機を求めている本学部学生の姿が明らかになった。

6. 今後の課題

今後の課題は三つある。

第一に、本研究の結果と他大学学生の場合との比較である。本研究の結果が、女子学生一般の傾向を示すものか否か、興味深い。

第二に、調査票の検討である。本研究の比較対象であった88年調査における項目適用の検討が必要である。選択肢の現代的表記への変更、および、本稿では統計的検定上、とりあげることのできなかつた項目におけるカテゴリー分類にも検討が必要である。

第三に、本稿で言及し得なかつた海外旅行の暗部を明らかにするという課題である。暗部の解明がなければ、本研究が一面的であるという謗りは免れない。ただし、それを明らかにするための方法自体もまた検討課題である。

付記

調査は、本学部服部孝彦教授の講義でも実施させていただいた。

また、データ分析にあたっては、上越教育大学の中山勘次郎先生・北條礼子先生から示唆を得た。

感謝を記す次第である。

注

- 1) 初等中等教育における国際教育推進検討会(2004)でいう「国際教育」は、「国際社会において、地球的視野に立って、主体的に行動するために必要と考えられる態度・能力の

- 基礎を育成する」ための教育を指す (p. 3)。
- 2) 最近のものでは、たとえば、国際観光振興機構 (2005), 国土交通省 (2005), ツーリズム・マーケティング研究所 (2005), そして、日本交通公社 (2005) などがある。
 - 3) 幸田 (2000) では、学生の研修プログラムへの満足が、語学研修よりも実際にアメリカの文化や人々とのふれあいによるものであるとされる。秋山 (2002) も参照。
 - 4) たとえば、幸田 (2002) では、海外語学研修プログラムが、「語学能力を高め、実際に学習言語を使ってみることで、学習へのモチベーションを高めるという効果だけでなく、地元の人との交流を通して、参加者の異文化理解への態度を大きく変える可能性がある」とされる。原田 (1991, 1992) も参照。
 - 5) 05年調査の掘って立つこの88年調査は、「個人記入方式 (アンケート用紙を渡し、自分で回答し、その場で回収)」で実施された。(寺本, 1988: 101)。

引用・参考文献

- 秋山秀一 (2002). 「異文化体験実践としての海外研修旅行」『日本国際観光学会論文集』9, 3-6.
- 榎泰邦 (1974). 「学生と海外旅行」, 文部省大学局学生課編『厚生補導』第一法規出版, 98 (学生と旅 (特集)), 32-46.
- 大場祺一郎 (1998). 「グローバルイゼーション時代の観光と異文化理解」『日本国際観光学会論文集』6, 12-17.
- 恩田守雄 (1989). 「学生海外旅行の現状と課題」, 青少年問題研究会『青少年問題』36 (6), 20-27.
- 幸田麻里子 (2000). 「国際交流とイメージの変容に関する研究—海外文化研修プログラムの参加者を対象として—」『日本観光研究学会第15回全国大会論文集』(2000年12月), 141-144.
- 幸田麻里子 (2002). 「海外語学研修プログラムの異文化接触機会としてのはたらきに関する研究」『日本観光研究学会第17回全国大会論文集』(2002年12月), 53-56.
- 国土交通省 (2005). 『観光白書 (平成17年度版)』国立印刷局
- 国際観光振興機構 (2005). 『2004/2005年度版 JNTO 国際観光白書』国際観光サービスセンター
- 佐々木土師二 (2000). 『旅行行動の心理』関西大学出版部
- 佐々木土師二 (2002). 「海外旅行に関する大学生のモチベーションの実証分析」『関西大学社会学部紀要』34(1), 219-243.
- 初等中等教育における国際教育推進検討会 (2004). 『初等中等教育における国際教育推進検討会報告—国際社会を生きる人材を育成するために—』(平成17年8月3日)
- ツーリズム・マーケティング研究所 (2005). 『JTB REPORT' 05 日本人海外旅行のすべて』JTB
- 寺本潔 (1988). 「現代女子大学生の海外旅行に関する考え方」愛知教育大学地理学教室編『国際理解教育と教員養成』101-115.
- 日本交通公社 (2005). 『旅行者動向2005—国内・海外旅行者の意識と行動—』日本交通公社観光文化振興基金事務局
- 原田房信 (1991). 「海外研修後の学生の意識変化に関する調査研究—アレン短大を事例として—」日本観光学会『研究報告』23, 39-43.
- 原田房信 (1992). 「海外研修後の学生の意識変化に関する調査研究Ⅱ—アレン短大を事例として—」日本観光学会『研究報告』24, 39-43.
- 藤本正典 (1979). 「現代学生の海外旅行についての考え方」, 日本観光学会『研究報告』10, 24-31.

**The Student's Frame of Mind about Overseas
Travel in the School of Social Information Studies,
Otsuma Women's University :
Compared with Research of 18 Years Ago
from Women Students of Other Universities**

NARHIKO TAKANO

School of Social Information Studies, Otsuma Women's University

Abstract

In this paper, it was clarified comparing the views of this faculty student's overseas travel experiment expectations with research of 18 years ago from women students of other universities.

The main point which became clear in the expectation of overseas travel is for "self-expansion" more than for "strain cancellation." The definition of "self-expansion" indicates an action that invents self-discovery or self-respect.

This research analysis consists of two parts ; the part of answers by choice and the part of free descriptions. First, the answers by choice were analyzed by chi-square tests, comparing this research with the precedent study of 18 years ago from women students of other universities. Next, free descriptions about their visions of overseas travel were analyzed from the viewpoint of empirical studies of university student's motivation toward overseas travel.

In addition, there is room for further research, comparing the results of this research with recent data of women students from other universities.

Key Words (キーワード)

overseas travel (海外旅行), woman student (女子学生), self-expansion (自己拡大), strain cancellation (緊張解消), international education (国際教育)